

木本議員 おはようございます。初めての一般質問になります、5番木本千代子です。よろしくお願ひします。「牟岐町国土強靱化地域計画について」平成30年3月に策定され、令和2年の12月に改訂された、牟岐町国土強靱化地域計画について「本町ではいかなる災害が発生しようとも、人命の保護を最優先し、地域の重要な機能が致命的な障害を受けず、町民の財産及び公共施設に係る被害の最小化を図り、すみやかな復旧・復興ができる「強さ」と「しなやかさ」を持った安心・安全な地域社会構築のため、牟岐町国土強靱化地域計画を策定する」とされています。そしてその計画の期間は、国土強靱化基本計画に準拠し5年間として、目標年度を令和4年度とする。となっていたようですが、その間コロナ禍ということもあり、状況は変わってきていると思います。また、計画の中には、事態を回避するための施策として、様々なことについて、推進や強化を進めるとされています。中でも地域消防力の強化とし、「防災人材の育成、防災教育の推進」については、本町にとっても、非常に大切な取り組みの一つと思うが、地域の自主防災組織や消防団等を中心とした地域防災のリーダーとなる人材の育成を行ったり、防災教育を推進し若年層からの防災意識の向上を図ることは重要なことと考えます。そして計画の中の一部ですが、事前に備えるべき目標の推進方針などもあげられていますが、今後、南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくないという状況のもと、地域住民の防災意識及び地域防災力の向上を図るため庁内に「防災専門部署」を設けるような計画はされているのですか。質問の1点です。次に、「牟岐町におけるSDGsの推進について」SDGsは、2015年に国連にて採択された持続可能な開発目標です。来たる2030年までに持続可能な発展を達成するため17の具体的な目標を掲げ、その内容は多岐に渡り、幅広い領域をカバーしています。SDGsは国連加盟国だけでなく、企業、市民社会、地域自治会など、あらゆる関係者が取り組みを行う地方自治体も増え、官民一体となり現代的な価値を創造し、町の活性化や町の抱える課題解決に成功しています。牟岐町も例外ではなく、SDGsへの取り組みを積極的に行い世の中に発信し、町としての価値を高めていくことが今後の町の発展と存続につながると考え、ご質問させていただきます。自治体及び町内の教育機関等で実施されているSDGsに関する取り組み事例があればお聞かせください。以上、質問の2点です。お願ひします。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枅富町長 木本議員の牟岐町国土強靱化地域計画についての「防災専門部署を作る予定はありますか」のご質問にお答えします。現在、本町では防災業務を総務課で所管しており、主担当・副担当の2名体制で執務を行っています。県内の状況を調査したところ、24市町村中、専門部署を設置しているのは14市町で、比較的規模が大きい自治体が専門部署を設置しており、本町を含めた小さな自治体では専門部署を設けていないのが現状です。議員ご指摘のとおり、今後30年以内に発生する確率が70%から80%ある南海トラフ巨大地震をはじめ、集中豪雨など各種災害に備え、安心・安全な地域社会構築のため、牟岐町国土強靱化地域計画や地域防災計画・総合戦略などの各種計画に沿った防災業務を進めていかなければならないと認識しています。専門部署の設置により、体制を強化し業務を加速する必要性は重々承知していますが、職員数の少ない本町のような小さな自治体では、あらゆる業務の多様化に対応していく体制作りで精一杯のところがあります。早期の専門部署設置は難しいところですが、総合戦略の町民アンケート結果では、防災に対する意識が1番多かったことから、行政への防災対応の充実を望む声は多いと思われまますので、防災監あるいは危機管理監などの登用を検討したいと考えています。次に、SDGsについてのご質問にお答えします。持続可能な開発目標、SDGsは、2030年を期限とするもので、17の目標があります。人権・経済・社会・地域環境・地球環境・様々な分野にまたがった課題が分類されています。自治体で行われているSDGsの取り組み事例ですが、牟岐町では、牟岐中学校において、生徒・教職員がビーチウォーククリーンアップとして、海岸の清掃活動を実施していただいています。改めてSDGsについて考えていただく機会だと考えています。令和4年度の実績として、生徒・教職員、計71名が参加。1袋40ℓが15袋回収しています。また、トコブシ、稚貝の放流やアオリイカ産卵場造成事業など、資源の増殖を図り、漁業振興と持続可能な漁業を作ることを目的として各種事業を実施しています。令和4年度シラタマ学級において、牟岐小学校の生徒が森林組合の方にお手伝いいただきながら、間伐等の作業など、林業体験を通して改めて森林の有する公益的機能である国土保全や水源の涵養など、国民に広く恩恵を与えることを考えていただく機会だと考えています。令和4年度の実績として4名参加していただいています。また、森林環境譲与税を活用して、所有者不明森林の増加を防ぎ、森林整備が円滑に実施できるように、森林明確化事業の実施や間伐等の森林整備事業を実施しています。私からは以上です。よろしくお願

いします。

喜田議長 今津教育長。

(今津教育長 登壇)

今津教育長 私の方から学校におけるSDGsの取り組みについてお答えします。持続可能な開発目標SDGsは、2030年を期限とするということで、先ほど町長の方からもありましたが、世界中の全ての人々が意識し、実践しなければならない「地球共通の目標」です。学校でSDGsの取り組みを実践することで期待するのは、児童・生徒が世界で起こっている問題を身近なものとしてとらえ、問題解決に向けて必要な情報を自ら調べ考え、行動する力が身につくことです。SDGsには、17の世界目標と169の達成基準があります。その中のいくつかにあてはまる環境問題に焦点を当てて、学校の取り組みを紹介します。保育園におきましては、園児に課題を知識として理解させることは難しいので、日々の生活・保育の中でできることを継続して取り組めるよう指導しています。例としては、普段の保育活動の中で身の回りの自然に触れることで、自然に親しみ大切にすることを育んでいます。小学校では、社会科で4年生で「ゴミと私たちの暮らし」、5年生で「自然災害と共に生きる」など、社会科や他の教科を通して学んでいます。また「総合的な学習の時間」を利用して、3年生で「海に関すること」、4年生で「テングサ」のことを牟岐の地域密着型の学習として行っています。学校行事においては、5月末に「ゴミ0活動」、年間を通して「ISO認定校での節電等」、そして地域の方と協力して「婦人会との栽培活動」等を行うことで、環境問題への意識の向上を図っています。中学校でも同様に環境問題への啓発を推進しています。ペットボトルキャップの回収をすることが、世界の子どもたちにワクチンを届けることにつながることや、CO2削減は世界の全ての人々の課題であることを学習し、解決に向けた実践力の養成に取り組んでいます。ここでは、環境問題についてご報告させていただきましたが、「人権に関すること」や「多文化理解に関すること」などのテーマも全教育活動の中に位置づけています。以上のように、学校でのSDGsに関する教育活動は、未来を担う子どもたちが持続可能な社会を実現するための知識や技能を身につけ、物事を広い視野に立って深く考える力を養うことを目指しています。SDGsをただ学ぶことだけを目標にならないように家庭や地域社会と連携をとり、大人も子どもも一緒になって、この課題に向き合っていかなければならないと考えています。私からは以上です。

喜田議長 木本議員。

木本議員 私の初めての一般質問に対して、誠に丁寧にお答えいただきありがとうございました。牟岐町国土強靱化地域計画は、私たちの町の未来に大きな影響を与える重要な計画です。町の発展と住民の安全を守るために、防災専門部署を設ける計画は、喫緊の課題であります。何卒、再度、ご検討をお願いします。そして、町の取り組み事例を聞き、自治体や教育機関が積極的にSDGsを推進し、地域の持続可能な未来を築くために努力しています。このような取り組みは、町の未来への投資であり、私たちの次世代に引き継ぐ貴重な遺産となります。町長のリーダーシップと関係者の努力に敬意を表し、引き続きSDGsの推進に向けた協力や啓発活動に積極的に参加していきたいと考えています。町長、教育長、担当課長のご努力に感謝し、引き続きのご指導とサポートをお願いします。最後に牟岐町がより強靱で持続可能な未来の実現に向け、ともに取り組んで行くことを心より願っています。これで私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。